

1. テーマ選定理由

勤続年数や所属部署が異なる5名で構成されたメンバーで話し合うため、まず各々の大学が抱える問題点を洗い出すためブレインストーミングを行った。出された問題点をグループ化した6つの分類に対し共感度の高いものに、各自2つ投票することとした。結果「大学のブランディング」について一番関心が高く、メンバー共通の課題として意見がまとまったことからこのテーマを選定した。

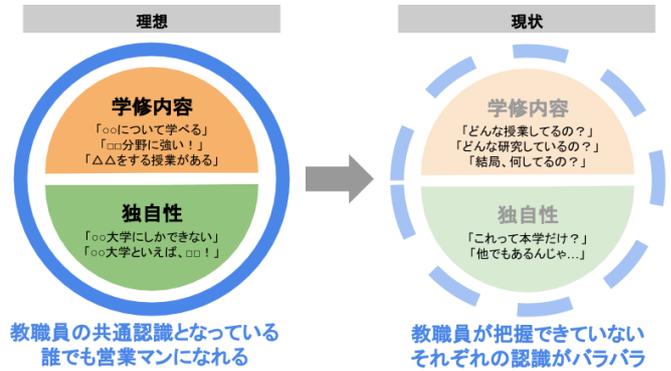
2. 問題点の深掘(理想と現状)

<理想(どうしたいか?)>

- ・学部/大学で独自性を出す。
- ・学部名から学ぶ内容が伝わる。
- ・強み(教育・研究内容/特色)を全教職員が理解している。

<現状(問題点)>

- ・同じ分野が学べる大学がある
- ・他大学と明確な差別化ができていない。
- ・他大学でも使えるような広報になっている。
- ・受験生が何を学べるのかイメージしにくい。
- ・強みを押し出せていない。
- ・そもそも教職員が強みを理解できているのか?
- ・学内でどんな教育・研究をしているのか把握しきれていない。



3. 解決策の検討

◆ 理想と現状のギャップを埋める解決策

私たちが考える理想と現状のギャップを埋める解決策としてやるべきことは以下の4つ。

- ・自大学について客観的な分析を行う。
- ・独自性を出すため、他大学についても分析する。
- ・教職員誰でも大学の広報ができるように意識統一を図る。
- ・受験生に伝わりやすい広報となるよう工夫する。

◆ 解決策のための手法と課題

解決策をさらに掘り下げていくため、マインドマップ形式で関連する手法や課題について議論を進めた。

解決策	手法	課題
自大学分析	<ul style="list-style-type: none"> ・大学案内/HPを見る [調査] ・(卒業生含む)学生、教員から聞く [聴取] ・授業を視察 [見学] 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務との両立→時間的制約 ・学生との関係性が良好でないと本音が聞けない ・教員の協力が必要 ・部署が違うと他人事と思いがち
他大学分析	<ul style="list-style-type: none"> ・大学案内、HP、受験情報誌を見る [調査] ・職員間の情報交換会 [聴取] ・オープンキャンパス参加 [見学] 	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の職員との交流機会が少ない ・現場に行く時間と費用の問題
教職員の意識統一 ↓ 意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ・研修/講習会/セミナー [講義形式] ・上司から部下へ口頭 or メール [伝達] ・ポリシー、憲章として掲げる [公約] 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を収容する教室を確保できない →複数回開催の必要性検討 ・窓口対応者、出張者が参加できない →参加できない人たちへのフォロー検討 ・時間的制約 ・その場だけになりがち・分かった気になる ・記憶に残りにくい ・言い続けるとなかなか浸透しない
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌リーフレットの作成 [紙媒体] ・SNSで随時情報を投稿 [電子媒体] 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がかかる ・広報範囲に限界がある(広報) ・見てもらえない→情報が届かない(Web)

メンバー内で議論した結果、これら4つの解決策の中から「教職員の意識統一」について焦点を絞り、ICTを活用したイノベーションを起こせるか否かを検討することとした。

4. イノベーションの提案 ～「教職員の意識統一」のために～

◆ ICT を活用したイノベーション提案：「クイズ！ Good Morning」

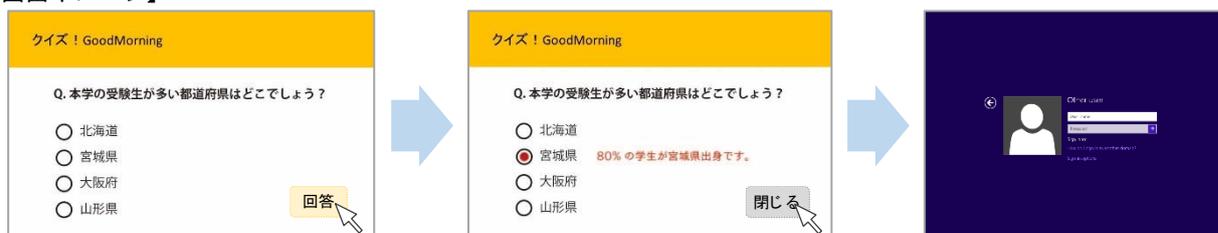
教職員が出勤しパソコンを立ち上げる際に、大学に関するクイズに回答しないとパソコンにログインできない（＝パソコンが使えない）システムを構築し運営を行う。より具体的な運営方法については下表のとおり。

	いつ	誰が	どこで	何を	どのように
1)クイズ作成	週1回	各部署	ー	大学に関する情報	クイズ形式(4択)を作成 問題取り纏め部署へ提出
2)出題	毎日 ～週1回	ICT技術 (システム構築 or 既存サービス)	パソコン or 大学ポータルサイトへのログイン時	各課から集めた問題	1回のログインにつき 1題ずつ画面にクイズを表示
3)答え合わせ	回答後		画面上で	問題の回答および補足	回答が正解不正解に関わらず表示

【想定されるクイズの内容】

- ・本学の入学者はどこの出身地が多いでしょう？ <学内情報の共有>
- ・オリンピックに出場した卒業生は誰？ <愛校心の強化>
- ・昨日、学内にスズメバチの巣が発見され施設管理課で駆除しました。どこでしょう？ <他部署業務内容の把握>
- ・△△学部の〇〇教授が書籍を出版しました。何について述べた書籍でしょう？ <教員の研究内容の把握> …など

【画面イメージ】



◆ 期待される効果

愛校心の強化

受験生へ自大学の魅力を十分に伝えるためには、所属する教職員が自大学をよく知り、愛校心を持っていないといけない。研修やセミナー、パンフレットなどでは、その場一時的な記憶になりがちである。いざ質問を受けた時に具体的な数値や事例を紹介できるほど説明ができない場合も少なくない。クイズ形式で問いかけることにより記憶に留まりやすくなる効果もあるため、自大学に対する愛校心を測り、自大学について詳しくなるツールとして期待できると考える。

受験生へ提供する情報蓄積

自大学のことを知っているつもりでも、情報が更新されていない場合もある。（例：入学者の男女比、出身地割合、在学中の就職率の変動など）古い情報のまま受験生へ伝達することは、ミスマッチ入学に繋がりがちなため、教職員は定期的に最新情報を収集する必要がある。情報収集するための一つのツールとして、本システムを活用できると考えている。

また大学のブランド力を高めていく上で市場分析は欠かせない。しかし、職員の場合は日常業務、教員の場合は授業や研究等に時間を捉われ、自大学や他大学の調査・分析を疎かにになりがちである。そこでこのクイズをきっかけとして、自大学に関する情報収集の一助としたい。さらにクイズ作成は、自大学情報のみならず他大学との比較問題も想定される。このような仕組みを構築することで定期的に大学市場調査を行う習慣がつくられることを期待する。

教職員の協働意識向上

大学運営には教職員の協働意識が不可欠である。教務部門を悩ませる学生の自学自習時間の平均時間や退学率の問題、また入試・広報部門が抱える学生定員充足率など、各部署で抱える問題・対応策を共有し、部門や役職関係なく教職員共通の課題であることを認知させる。

クイズを通して定期的に課題提起されることで、教職員全体に協働意識・当事者意識（危機感）を持ち、教職員間の活発な情報共有により組織の引き締めが行われることを期待する。

以上